

2021年12月4日

岩手県大船渡市で魚と植物を同時に育てる循環型農業「アクアポニックス」事業を開始

～ 当社が公民連携事業で参画している岩手県大船渡市と連携 ～

株式会社テツゲン

株式会社テツゲン（社長：佐藤 博恒、本社：東京都千代田区）、メタウォーター株式会社（社長：山口 賢二、本社：東京都千代田区）及び株式会社プラントフォーム（代表取締役：山本 祐二、本社：新潟県長岡市）の3社は、水耕栽培と水産養殖を融合した循環型農法「アクアポニックス」を事業として展開する株式会社テツゲンメタウォーターアクアアグリを2021年10月1日付で設立し、11月に岩手県大船渡市でプラント建設を開始しました。

アクアポニックスは、養殖する魚の排泄物を肥料にして植物を育てる新しい農業の手法です。水で行う有機栽培とも言われ、農薬や化学肥料を使わないだけでなく、水も捨てないため環境負荷を最小限に留めて養殖と農業を行うもので、SDGsの理念にも通じる次世代の環境保全型農業モデルです。

株式会社テツゲンメタウォーターアクアアグリは、11月より大船渡市 大船渡浄化センターの隣接地で事業を開始。アクアポニックスによる、チョウザメの養殖と無農薬・無化学肥料の野菜の水耕栽培を行い、2022年10月から順次生産物を販売する予定です。

近年、下水処理場では人口減少に伴う統廃合や技術革新による処理の効率化などにより、未利用となっている土地が多く存在しています。また国土交通省が推進する「下水道リノベーション計画」においても下水処理場を「下水熱や再生水を活用し農業生産拠点化」することが推奨施策のひとつとして掲げられています。

大船渡市は、下水道施設の土地の利活用を検討するなかで、アクアポニックス事業を下水処理場の未利用地の有効活用、余剰エネルギーの利活用に加え、人材雇用の創出、地域産業との連携、就農者の育成など地域連携に資する取り組みと捉え、株式会社テツゲンメタウォーターアクアアグリとの間で事業用定期借地権設定契約を締結し、本事業の事業用地を提供することとしました。

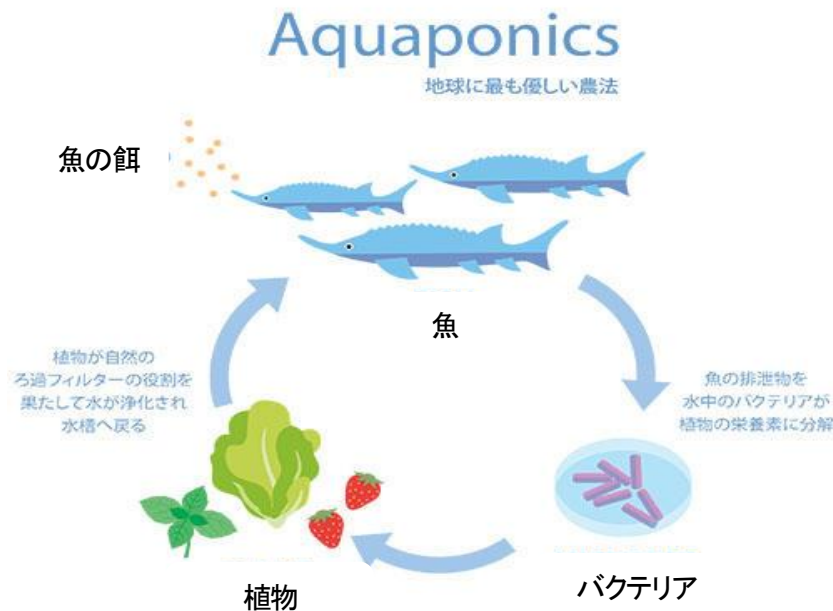
アクアポニックスのプラント建設は、2021年11月に着工し、2022年7月に完成を目指します。同プラントサイズは、約2,000㎡です。プラント設計・建設・技術支援は、アクアポニックス事業で実績を残しているプラントフォームが担当します。

テツゲンは、主にプラント運営を担い、具体的にはチョウザメ養育・レタス栽培を推進します。

テツゲンとメタウォーターは、現在大船渡市の下水道事業で協業していますが、今般、次世代型の新規事業をスタートさせることを通じ、これまでの関係性を更に強固なものとし、両社が持っているノウハウを最大限活かしていくとともに、環境をキーとした地域に密着したビジネスモデルの発展に挑戦してまいります。

「アクアポニックス」について

1980年頃にアメリカで発祥したのが始まりと言われていますが、近年研究が進み、安定生産が実現できるようになり、オーストラリア、欧州と世界的に広がりを見せています。アクアポニックスの仕組みは、養殖している魚の排泄物をバクテリアが植物の栄養素に分解し、植物はそれを養分として成長します。その際、植物が天然の浄化装置の役目を果たし、綺麗になった水が再び魚の水槽へと戻るといった循環型の農法です。自然界の縮図とも言えるこのシステムは、水を捨てない、換えない、そして農薬と化学肥料も必要としない、いわば水で行う有機栽培であり、サステナブルを体現する地球に最も優しい究極のエコ農業とも言われています。



(問い合わせ先)

株テツゲン 秘書室長 森下 哲也 (TEL 03-3262-4140)

以上